

2021年度 学校自己評価表

学校法人 中央高等学園 中央高等学園専修学校

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「温かい人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切に社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	---

今年度の重点目標	1. 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 2. 規律ある生活態度の育成・徹底 3. 望ましい人間関係の構築 4. キャリア教育の推進と充実・早期の進路決定
----------	--

評価基準
 A: ほぼ達成 (90%程度) B: 概ね達成 (70%程度) C: まだ不十分 (50%程度) D: 方策の見直し (30%以下)

年度当初				評価結果(10月)				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格取得	○個々に応じた学習意欲の喚起	○試験時の出席率が上がっている。(昨年度出席率95%) ○支援の必要な生徒は試験前に保護者を交えて懇談をし、要望を確認。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開を図れる。	○1年間の流れを丁寧に説明し、試験やスクーリング等単位認定に大きく関わるものへの出席を促す。 ○支援が必要な場合、どのようなサポートがあれば意欲的になれるのかを本人と確認を取りながら進めていく。また、年間・学期・月・週ごとに小さな目標を決め達成感を持たせていく。	○試験の出席率96%(1年生100%)。新入生も含めテストの重要性を伝えられた。		○引き続き丁寧な説明を継続し出席率を維持。 ○スクーリングを3年生(12月)、1・2年生(1月)と分け、出席しやすい状況を作る。		○単位認定が心配な生徒は、放課後に補習を実施。また、追試課題も自宅ではなく放課後に取り組みさせた。	○英語は習熟度クラスを設け、学習しやすい環境を作る。
	○授業の質の更なる向上	○他教科で教科横断的な取り組みが出来ている。 ○自己研鑽としての資格試験にチャレンジすることが出来ている。	○生徒の情報を共有し、授業の質を向上させる。 ○職員の自己研鑽が日々行われている。	○教員同士連携を取り、魅力的な授業展開を図る。 ○職員の自己研鑽として、様々な資格取得にチャレンジする。	○朝の職員ミーティングで生徒情報の共有ができていない。 ○職員の資格に関する情報共有できていない。		○教員同士の授業内容の共有をできる限りしていく。			
	○資格取得率の向上	○漢字検定3級以下合格率59%、準2級3名、2級1名合格。 ○パソコン検定3級以下合格率35%、準2級9名、2級3名合格。 ○漢字検定については55%の目標をクリア。パソコン検定は、目標値未達。各検定とも上位級の合格者が増えた。 ○玄関に上位級を掲示することで、生徒のモチベーションアップにつながっている。	○漢字検定3級以下の合格率60%以上、パソコン検定3級以下の合格率が40%以上、かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。	○出席率を上げ、授業での検定対策を継続して進めていく。 ○パソコン検定においては、検定取得が就職・進学に有利になること等、動機づけをさらに意識し、検定日までの学習スケジュールを昨年より早めて対策していく。	○パソコン検定対策、例年より早めのペースで学習できた。 ○漢字検定3級以下の合格率30%準2級1名、2級1名合格。 ○パソコン検定3級以下の合格率が40%、準2級3名、2級1名合格。		○1回目のパソコン検定は目標の40%をクリア。2回目も引き続きペースを確認しながら学習していく。 漢字検定は全体の合格率は低いが、1年生に関しては17名中13名が合格で76%の合格率。上級生、上位級の合格が難しくなっている。長期休暇も活用して上位級対策をおこなっていく。	B	○パソコン検定は進路決定者を中心に欠席が多かった。 ○漢字検定3級以下合格率41%。準2級6名、2級2名合格。 ○パソコン検定3級以下合格率42%。準2級7名、2級2名。 任意受検の英語検定受検者	○全員受検の検定は、検定日ではなく検定WEEKとして、検定試験を授業に組み込んでいく。 ○パソコン検定以外でパソコンに関する検定にどんなものがあるのか見える化する。
規律ある生活態度の育成・徹底	○学校の規律やルールの遵守、公共の場でのマナー向上	○毎月の服装検査を継続することで、服装のルールは徐々に定着してきている。	○社会で通用する身だしなみと生活習慣を身に付けさせる。	○ルールを書面化することで、生徒・職員・保護者とも視覚的に共有し、毎月の服装検査を継続していく。	○多くの生徒はルールは守ることができている。毎月特定の生徒が毎回規定を満たしていない。		○服装検査の日以外にも継続して声かけをしその都度指導していく。		○その都度指導できた。生徒の意識が変わってきている。	○指導を継続し、社会で通用する身だしなみを身に付けさせる。
	○積極的な挨拶の定着	○玄関での声かけをすることで、登校した生徒の様子や変化に気づくことができている。	○挨拶をする習慣を身に付けさせる。	○玄関先で声かけとともに服装の確認もし、合わせてHR・全校集会でも確認していく。	○玄関での職員の挨拶は日によらない時間帯がある。		○一人ひとりが意識してできるだけ毎日声かけをする。	A	○人数にバラつきはあったが毎日教員が声かけできた。	○生徒から挨拶ができるよう、継続して声かけをしていく。
	○清掃活動の習慣化、学習環境の整備が整う	○NO見回りdayを設けることで、自主性を高めることができている。ただ、一部の生徒は引き続き個人的なかかわりが必要である。	○自らが率先し毎日清掃活動を行う姿勢を身に付けさせる。	○清掃場所の確認を職員が交代で担当することで、清掃の仕方・「きれい」の基準を全職員・全生徒で共有する。	○職員の見回り、職員の交代見回りはできていない。		○毎週(水)はNO見回りDAYを実施する。交代で担当する場所を確認し見回りをする。		○感染症対策の対応で、毎日の清掃がなく、実施できていない。	○NO見回りDAYを実施する。
望ましい人間関係の構築	○信頼し合える関係作り	○第2回目のアンケートでは、ト入学してよかったの回答は生徒80%、保護者89%。3年生に関しては生徒満足度100%。 ○「ソフトなタベ」の参加者は平均7.5人。	○保護者・生徒アンケートで満足度90%以上。 ○「ソフトなタベ」の参加者平均10人。	○年2回の生徒・保護者アンケートを継続して実施(9月・1月:3年・2月) ○保護者の横のつながりの強化 ○保護者総会の実施。「ソフトなタベ」は隔月で曜日(火・水)を変えての実施を継続する。	○生徒・保護者アンケートを継続して実施できたが、回収率は82%と低かった。 ○ソフトなタベを隔月で曜日を変えて実施することで今まで参加できなかった保護者も参加できた。		○生徒・保護者アンケート回収率90%以上を目標。 ○ソフトなタベの参加者が固定化されているので、担任含め保護者にも参加してもらえるように呼び掛けてもらう。		○アンケート回収率:保護者94%、生徒91%。満足度_____。 ○ソフトなタベの平均参加者9.75人。参加者は固定化されている。	○年2回の生徒・保護者アンケートを継続して実施(9月・1月:3年・2月) ○ソフトなタベの参加者固定化を解消するため、内容を検討。
	○クラスでの仲間作り	○毎月のお便りと共に保護者宛て要望記入の用紙を同封し、家庭での小さな不安や要望を早めに聞き出している。	○人間関係固定化の枠を外し、教室に入りづらい生徒の教室にいる時間をふやす。	○生徒に自主的に行事を計画させる。1学期3年生、2学期2年生、3学期1年生が企画・実行する。	○1学期に3年生企画の行事を行い、クラスの仲を深めることができた。		○3月に2年生企画を実施予定。1・2年生も引き続きイベントの企画・実行をしていき仲を深めていきたい。	B	○3月に2年生企画の球技大会を実施。初めての企画を成功させることができた。	○生徒企画イベントの継続。

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果（10月）			最終評価	
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
キャリア教育の 充実・早期進路決定	○幅広い視野・職業観の育成	○調査票で進路希望を調査。	○幅広い選択肢の中から進路目標を見つけさせ、進路実現のため日々努力させる。	○感染症の様子を見ながら、学校見学、出前授業、職業人講話の計画を立てる。	○2年生は6月に就職ガイダンス（キャリア形成支援期コース）をオンラインで実施。また、1年生は、9・10月毎週総合の時間に進路教育を実施。	○11月に進路希望調査を行い次年度に向けた方向付けをする。	A	○2年生は90%の生徒が卒業年度に向けて進みたい方向が決まっている。	○より具体的なゴール設定が必要な生徒もいる。
	○進路希望と適性に対する自己理解の更なる促進	○オープンキャンパスの在り方も学校によって様々なので、個々に対応していく。 ○卒業生進路決定17/19名（89%）	○自己理解を促し、理想の自分を見つけさせる。	○キャリア教育計画を視覚化し、学期ごとに各学年の動きを共有する。	○3年生は希望するオープンキャンパス、職場見学に参加することができた。	○3年生の進路先未決定者へのフォローを強化する。		○3年生進路決定20/22名（90%）。	○
	○進路実現に向けての具体的・主体的な行動	○単位取得・出席状況に問題のない生徒はアルバイトを許可。ただし、事前に申請書を提出することで、バイト先を確認する。	○自らの進路について真剣に考えさせることで、具体的な行動を起こさせる。	○社会経験・自己実現に向けたアルバイトを促す。	○2・3年生は40%の生徒がアルバイトをしている。1年生は夏休みに17名中9名の生徒が経験した。	○継続して生徒の進路実現に向けたアルバイトを促していく。		○年間を通じて全学年で55%の生徒がアルバイトを経験した。	○社会経験、自己実現に向けたアルバイトを促す。
	○ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る	○ボランティア活動が休止が多い中、地域交流の新たな方法を検討する。	○自ら率先してボランティア活動や地域貢献する姿勢を身につけさせる。	○ボランティア参加の生徒を視覚化し、学期末にボランティア表彰を実施する。	○中止になってしまったボランティアはあったが、地元北栄町の活動に参加できた。	○ボランティア情報の提供を継続して積極的に行う。 ○ボランティア実施数が少なく、学期末のボランティア表彰は出来なかった。学年末に表彰を実施予定。	○北栄町でのボランティアに参加できた。ボランティア表彰最多参加者を讃える。	○ボランティア表彰の継続。	